

へいほ

# 「台湾平埔族のものごと」ガイドブック

今回の展覧会のテーマはなにやら難しそうです…。

そこで、漫画で平埔族のものごとを見ていくとしましょう！

私たち日本人にはなじみがない平埔族。

台湾の西部の平野部にくらしてきた先住民のことです。

今回展示しているものは平埔族独自のもの、または中国からの影響を受け、そして日本が統治した時代もくぐりぬけ残された、彼ら平埔族の貴重な文化遺産なのです。

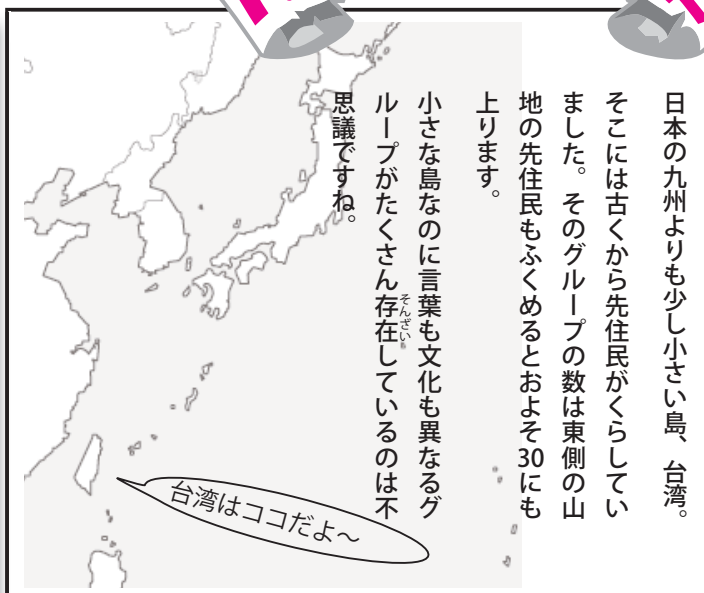
平埔族の歴史を知ること、すなわち台湾の歴史を知ることになるのです。それではものごたりのはじまりはじまり、

## 1. 平埔族の歴史

日本の九州よりも少し小さい島、台湾。そこには古くから先住民がくらしていました。そのグループの数は東側の山地の先住民もふくめるとおよそ30にも上ります。

小さな島なのに言葉も文化も異なるグループがたくさん存在しているのは不思議ですね。

台湾はココだよ～



1600年ごろから、外国によって台湾は支配されるようになります。

### 台湾の歴史

- 1624年 オランダによる統治
- 1662年 オランダ撤退
- 1683年 清朝による統治
- 1895年 日本による統治
- 1945年 日本敗戦  
中華民国時代

中国の清が統治した時代、中国大陸からたくさん漢民族の人々が海を渡り、台湾へと移住を行います。19世紀の記録でその数、20万～30万人とも言われています。



一方、西部平野部にくらしていた平埔族の数は正確な統計はありませんが、およそ5万人。その数の差は歴然です！

そうしたことから「漢民族化」といって平埔族の独自の言葉は中国語へと変わり、それまでの文化や習慣も変化、はたまた無くなってしまいました。もしくは住み慣れた土地を離れるかの選択をせまられることになりました。





# がんりたいしゃ 岸裡大社

## はんけいちぞく 潘家一族の物語

時は今から300年前。平埔族の中には台湾に移り住む漢民族に抵抗して反乱をおこすグループもいました。

一方で漢民族と近づき、繁栄をきづいた平埔族のグループもありました。そのグループはリーダー「潘家」率いるパゼツへの人たちでした。

パゼツへの人々は現在の台中市に  
くらししていました。



ココ!

台中市内にある岸裡大社とはむかしの集落の名前です。

この地にも1700年ごろから漢民族が  
続々と移住してきました。

パゼツへの住む集落には、漢民族の移民の中に医学に詳しい人がいたようです。

その漢民族にパゼツへの人が病気を治してもらったことから、パゼツへの人と漢民族の人とのつながりが強くなったと言われています。



パゼツへとつながりをもった漢民族  
張達君

他の平埔族が反乱を起こす中、パゼツへの人たちは清朝軍（漢民族）の応援にまわったそうです。



潘氏は、もともと名字をもっていないかもしれませんが、清朝政府に気に入られたリーダー阿莫は「潘」という姓をもらつたことになりました。

そして阿莫の孫である潘敦仔の時代には、台中市に広大な土地を与えられ、その栄華を極めたといわれています。



よく貢献してくれた。  
ぜひ北京にあいさつに来たまえ

潘家には大小25の部屋をもつ大豪邸が建てられていたそうなの。  
一般の漢民族以上に地位と名誉を得たのじゃ。



清朝皇帝・乾隆帝

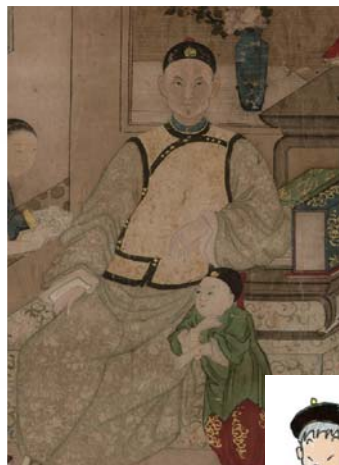


その潘敦仔の画像は台湾の博物館からお借りしましたが、その夫人と息子二人の画像は参考館もっているのです！

夫人でございます。



潘敦仔夫人



長男・潘士萬



次男・潘士興

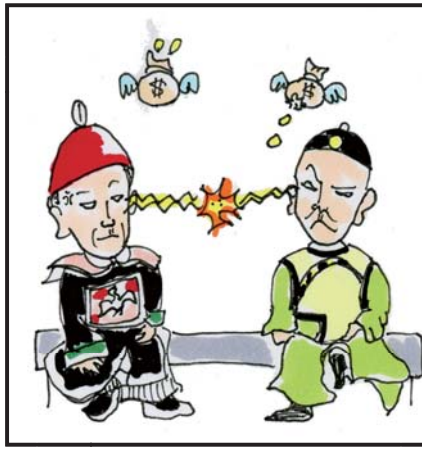


敦仔さん  
何事でも  
おんごに  
画像で...

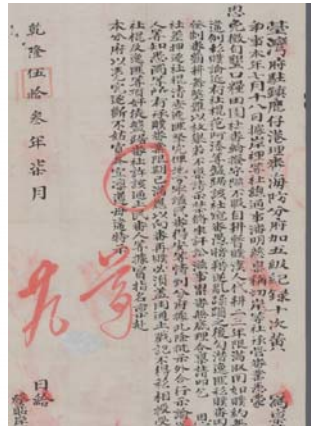


時代がたつとともに、やはりパゼツへの集落へ多くの漢民族が入り、土地を開拓、占領するようになると、パゼツへの人たちの居場所は次第に無くなっていきました。

さらに長男・土萬」と次男・土興が権力をうばい合う兄弟げんかをおこし、お金を大量に使い、潘家もおとろえていくことになるのです。



やがて180年の中頃になると潘家一族以外の多くのパゼツへの人々は台中市から、まだ漢民族がいない埔里というおよそ60km離れた土地へ険しい山を越えて移住することになりました。



これは岸裡文書とよばれるものです。

パゼツへのリーダーである潘家に残る漢文で書かれた契約書で、1741年〜1918年にかけて作られました。

内容は、清朝のお役所からの通告や、平埔族から税を徴収する制度、借金、土地に関するやりとりなど、さまざまです。

この文書によって、パゼツへの歴史がわかると同時に、台湾中部の歴史を知ることができる優れた歴史資料でもあります。

参考館では以前からこの岸裡文書を所蔵していましたが、台湾の古文書というだけで詳しいことはわかりないうまででした。近年、台湾、

日本の研究者の力をお借りしてその全貌が明らかになったのです！

## しんこうもんじょ 新港文書

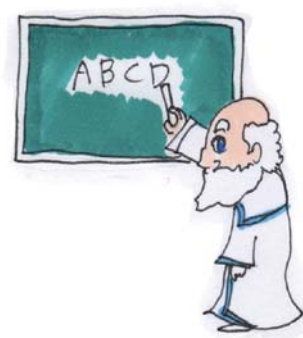
こちらの文書は1741年に現在の台南市で書かれた土地の契約書です。シラヤと呼ばれるグループに関するもので、左半分はローマ字で書かれています。なぜ？どういうこと？



清朝が台湾を統治する以前にはオランダによる統治の時代がありました(1624〜1662年)。オランダのキリスト教の宣教師も台湾へとやって来たのでした。



オランダの宣教師はこれまで文字を持たなかったシラヤの人々にローマ字を教えました。



しかし、この文書は1741年のもの。

すでに清朝の時代(1683年〜1895年)でオランダの時代は終わっているはず？

そう、オランダ人が台湾を去ったのちも、シラヤの人々はローマ字を使って自分たちの言葉を土地の契約書などに書いていたことがわかるのです。





## 2. 生活文化の記憶きおく

### いの 神々への祈り

台湾にむかしからくらししていた人々は祖先の霊を崇拜してきました。いまでは漢民族の宗教である道教や仏教、キリスト教を多くの人が信仰していますが、平埔族独自の信仰を現在でもみることが出来ます。



「コンカイ」と呼ばれるお祭りをを行う場所にこの壺をまつり、伝統的な儀礼を行っているのです。



こちらは「タイタイ」と呼ばれる祖先の神さまです。こうした祖先の神さまを形にあらわしたものは台湾現地の平埔族の集落でも今ではほとんど見ることができません。



壺以外にも祭壇などに祀られているものが展示されているので要チェック！中には鹿などの動物の骨を見ることが出来ます。食物にもなったこの動物の骨が平埔族の人びとを守ると信じられていたみたい。

台湾南部の平埔族（シラヤ、マカタオなどのグループ）は、祖先の霊「アリツォ」を崇拜、壺やビンの中に水を入れることで、霊力を発揮させて、みんなが守ってもらえると信じています。





# あいし日 の生活用具

平埔族に関する生活用具は参考館や他の台湾の博物館にもあまり收藏されていません。もちろん台湾現地でももう見ることが難しくなったものばかりです。  
平埔族の生活の断片しか知ることができないとは言え、いまでは貴重な平埔族の生活用具をのぞいてみましょう。

連杯と呼ばれるもので、お酒を入れ、二人で仲良くお酒を飲み干す器なのよ。



れんぱい  
連杯



うすは現在でも葉作などで見ることができます。

\* いずれの写真も平埔族の集落で撮影したものではなくイメージです。

うす

これは「冠軍旗」とよばれるもの。パゼツへの集落では古くから新年をむかえる祭りの中で、若い男衆によるかけっこの競争がありました。その入賞者に手渡される旗です。昔は鹿追いなどの狩猟をおこなっていた平埔族。脚が丈夫で速いことが重要だったですよ。



かんぐんき  
冠軍旗



## ビンロウ

「ビンロウ」と呼ばれる目が覚めるような刺激のある木の実、そしてタバコなどをしまっておく袋です。オシャシな刺繍がほどこされているよ。



## けんたい 剣帯



漢民族式のベッドにつるす飾りのことです。





## なつかしの民族衣装

これはバゼツへ族の伝統的な民族衣装です。現在では復元した衣装をお祭りの時に着ることはありますが、参考館には80年以上前の伝統的なバゼツへの民族衣装があります。



日本の私たち、漢民族の人たちとも違う独特の衣装に注目です。頭には帽子以外にもハチマキをしているね。オシャレな腰帯に袷褌掛けもしています。色は、赤・白・黒色がバゼツへの人たちは好きだったのかな？



続いて台湾南部にくらすシラヤの衣装。上着は参考館にはありませんが、頭きんや前かけを見ることが出来ます。バゼツへと違う色づかい、デザインに気づいたかな？



\*これはタロコ族が腹当てをしている写真です。1900年ごろのもの。出典：森丑之助『台湾蕃族誌』1917年

これは腹当て、日本人の褌巻きとは違うようだが、金太郎さんのお雰囲気は似ている？

## 布切れに残された民族の文様

シラヤの女性によって作られた文様がほどこされた布きれ。今から70年以上前のものではないか。現地にももう残されていないこの布切れですが参考館では100点余り收藏しています。衣服のアップリケや飾りなどに使われていたようです。しかし、なぜ布切れのみが大量に残されたのか？



お気づきかな？  
これ、千ラシとポスターにのっている布きれ。全体はこんな感じでしたー！

そして文様にご注目！  
山地の先住民には見られない平埔族ならではの鳥や花の文様を見ることが出来ます。  
一点、一点引き出しを開けてじっくり見てね☆



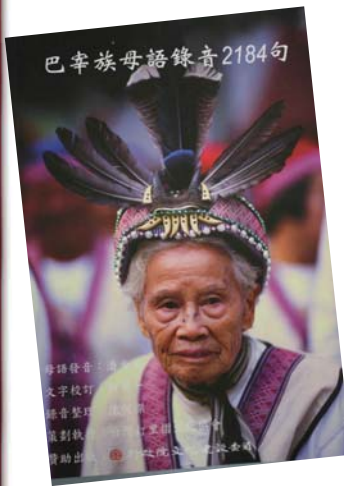
↑写真：国立民族学博物館提供  
ルカイ族の衣装



どうやらこの布きれを他の先住民との交易品として、もしくは販売用として商品にしていた可能性があります。その証拠にシラヤのお隣の山地のルカイ族の衣装のアップリケにシラヤのこの布切れが使われているのです。







キリスト教が1800年代中頃から再度広まったことで、南投県埔里に住むバゼツへの人びとは宣教師に教わったローマ字で自分たちのバゼツへ語を書き残しました。そのことが自分たちの言葉を今に伝え、残すことにつながったそう。

### 3. 平埔族の現在 げんざい

平埔族のほとんどは漢民族化が進まなかった山地の先住民と異なり、独自の言語・文化が残っている場合が少なく、現在、政府に先住民としての権利を認められていません。

1980年以降、台湾は民主化し、平埔族の人たちは自らの手で民族グループの存在を主張し、法律で保護された先住民（台湾では原住民族）という権利を得ようとしています。

また、平埔族のむかしから話してきた言葉の伝承、古くから伝わる儀礼・お祭りの復活、衣装などの生活に関する「もの」の復元。さまざま活動積極的に取り組んでいます！



バゼツへ語による歌



平埔族の博物館の建設



孰番(平埔族のかつての呼び名)は原住民族である！



カハブ族のおどり



研究者による平埔族織物の復元

(写真：輔仁大學織品服装學系 副教授 蔡玉珊提供)



ホアニャ族のむかしから伝わる儀礼



# 展覧会クイズ

Q 1 <sup>がんりたいしゃ</sup>岸裡大社という<sup>しゅうらく</sup>集落は現在の何市にあるでしょう？

---

Q 2 <sup>はんしまん</sup>潘士萬・<sup>しごう</sup>士興兄弟は家庭団らん図で口に何をくわえている？

1. あめ 2. キセル(たばこ) 3. ビンロウ 4. <sup>こうきん</sup>口琴

---

Q 3 <sup>しんこうもんじょ</sup>新港文書は漢字の他になんの文字で書かれている？

---

Q 4 シラヤのお祭りを行う<sup>しせつ</sup>施設「コンカイ」にまつられている物はなに？

---

Q 5 2人が一緒にお酒を飲む道具、なーんだ？

---

Q 6 平埔族の民族衣装で、今の日本の普段着ている服に見られないものを書いてみよう！

---

Q 7 文様のある布きれにはどんな動物がししゅうされているかな？

---

こたえ：

Q 1. 台中市 Q 2. 2. キセル(たばこ) Q 3. ローマ字 Q 4. 壺、ビン、動物の骨  
「太祖神屏」、人がたの神さま「祖神像」「タイタイ」など  
Q 5. 連杯 Q 6. 頭さん、はちまき、袈裟飾り、腹当て、腰帯、前かけなどかな～  
Q 7. 鳥、犬、他にも登場しているかも！

第73回企画展

「台湾平埔族のものがたり—歴史の流れと生活文化の記憶—」

ガイドブック

会期：2014年10月8日～12月8日

作成：天理参考館 海外民族室

世界の生活文化と考古美術の博物館

天理大学附属

天理参考館

TENRI UNIVERSITY SANKOKAN MUSEUM  
〒632-8540 奈良県天理市守目堂町250番地  
TEL 0743-63-8414 FAX 0743-63-7721  
URL <http://www.sankokan.jp/>



携帯電話のサイトから  
情報をご覧頂けます